

第3回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会 会議録

1 開催日時 令和6年12月19日(月) 午前10時30分から午前12時まで

2 場 所 エア・ウォーターアリーナ 大会議室

3 出席委員

会 長	新井 喜代加 氏
副会長	横内 俊哉 氏
委 員	宮下 昌史 氏
委 員	中川 由香里 氏
委 員	常田 光弘 氏
委 員	小林 珠美 氏

(オブザーバー) 荒井 英治郎 松本市教育顧問

4 事務局 伊佐治教育長、赤羽次長、坂口教育監、逸見住民自治局長、小口文化観光部長、大島スポーツ本部長、山本スポーツ事業推進課長、清澤文化振興課長、小西教育政策課長、清沢学校教育課長、西澤学校教育課施設担当課長、廣田生涯学習課長、横山学校教育課施設担当課長補佐、堀金学校教育課係長、幅部活動地域移行統括コーディネーター、高山学校支援室指導主事、上嶋生涯学習課係長、傘木文化振興課係長、中島スポーツ事業推進課主事、脇谷文化振興課主事、篠田学校教育課主事、浅井生涯学習課主事、降旗教育政策課長補佐、竹内教育政策課主査、千賀教育政策課主査、

<会議事項>

(1) 地域移行マネジメント支援の業務報告について
スポーツデータバンク(株)長瀬氏が説明。

(委 員) 説明会用の動画はわかりやすい。市民もこの動画を見れば地域移行の趣旨をよく理解してくれると思う。まつチャレの届け出、指導者登録がなかなか増えない課題について、登録者を増やす手段として、スポーツの各種競技団体とどのような関わりをしているか。

(山本課長) スポーツ事業推進課で2年前からプロジェクトチーム会議を立ち上げ、今ある部活動種目の競技協会の代表者を中心に、受け皿づくりの検討会議を年に4回開催、競技ごとに受け皿団体の立ち上げを検討している。また、市内にはスポーツ少年団として、小学生のクラブチームがあるので、スポーツ少年団が中心となって中学生向けのチームを作るなど、連携しながら進めることを考えている。

(委 員) これからの小中学生が今後どんな選択肢があるか、見える化する仕組みが大事だと思う。今の6年生は、自分たちが中3になる頃には部活が無

くなっているという、既に選択に迫られている。サポートデスクのホームページで情報が公開されている団体は、規約を作って自走しているが、その段階までいかないが、指導者・地域クラブをやってみたいと思っている人からの情報が日々学校に寄せられる。こういった情報も含めて、サポートデスクだけを見るのではなく、他の方法も考えてほしい。

- (2) 令和6年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題への対応状況について
降旗教育政策課長補佐が説明。

- (3) 地域クラブへの送迎について
教育政策課小西課長が説明。

(委 員) 金銭面の支援より送迎手段の支援が大事だと思う。波田中学校は遠い子どもだと4km以上の距離がある。歩いて帰って来た後、またその道を歩いて地域クラブに参加することは子どもも大変。送迎してあげたいが、仕事が終わってから送迎できるかは難しい家庭がほとんど。送迎支援について引き続き研究してくれることは安心した。山間地でなくても交通のアクセスの悪い地域は子どもたちで行けないので、せめて地域クラブへの往路だけは支援するような仕組みがあると良い。

(委 員) 効果的な送迎は難しいと聞いたが、今後地域クラブが増えてきた際、地図にプロットして、送迎ルートを検討したりすることはできないか？中学生は自転車通学をしている子もいる。自転車の利用も方法としてあっても良いと思うので、ガイドラインを整備しても良いと思う。子どもたちのやりたいを阻害しないことが狙いだと思うが、結果的には行ける範囲の活動に参加するように、現実を見ないといけないことは、制約が出てしまうと思う。

(委 員) 平日他校に行く場合の移動手段は一度自宅に帰ってから自転車で行っている生徒が多い。通学の場合は保険の対象になるが、その場合は対象外となるといった課題もある。公共交通機関の利用について、中学生は大人料金になっているので、その辺の配慮があると良い。

(委 員) 保護者が送迎できない環境にあることで、子どもたちのやりたいことができないことは良くないと思う。

- (4) 山間地域における地域移行の現状と課題について
幅部活動地域移行統括コーディネーターが説明。

- (5) 放課後等の子どもたちの居場所づくりについて
生涯学習課廣田課長が説明。

(委 員) 昨日、白板地区まちづくり協議会に参加した際に地域移行の話題が取り上げられたが、会議参加者の意識は「中学生の部活動を公民館でやること

は非常にハードルが高い」と思っているようだった。地域クラブの活動は「一緒に楽しめればよい」、「中学生だけでも公民館を使える」といったハードルが低いものだと、意識の改革をしっかりと行っていないと、今公民館を利用している人たちは「中学校の部活動の代わりを地域で行う」といった意識のまま、進まない。意識改革を一緒に進めていきたいと思う。率直にわくわくした。公民館はお年寄りの行く場所というイメージがあるが、若者がぶらっと入っていき、居場所ができることはすごく良いと思う。何十人規模の部活動のような受け皿としてはできないかもしれないが、居場所としての選択肢として考えてほしい。保護者や子どもも意識改革をして、当たり前からの脱却をキーワードに今後の展望として期待したい。

(委 員)

(委 員)

庄内地区公民館の居場所事業を見学した。中学生が集まって、公民館を普通に使っていた。可能性として広がるのではないかと思った。

- (6) 松本市における部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査結果(速報値)について
幅部活動地域移行統括コーディネーターが説明。

(閉 会)